

認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

～推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！～

活動報告への質問と回答（Q&A） **和歌山県御坊市 谷口泰之 氏**

認知症症状への 対応	質問： 70代から認知症を発症された方の相談を受ける中、本人、「まだ高齢者ではない」という認識ながら記憶障害で今までできていた事ができず、紛失を繰り返し同居家族もその対応に苦慮されストレスが溜まっているということに対して、対処や家族のストレスを緩和できる手法について悩んでいます。当事者と向き合えるいい方法があれば教えていただきたい。
	回答： 「まだ高齢者じゃない」ということであれば、その気持ちを尊重することが大切です。「もう高齢者なんだから」「認知症ということを受け入れてほしい」という気持ちでの関わりは、本人の自尊心を傷つける恐れもあります。紛失を繰り返すということに対しては、紛失している本人が一番不安だと思いますので、その不安感を共有（共感）することで本人の安心につながると思います。
認知症の人の 希望をかなえる ヘルプカード	質問： 希望を叶えるヘルプカード、実際当事者のご家族から提案。協働して作成したのですが、なかなかご本人の外出時の持ち物として認識がされず実動の難しさを感じました。 何か工夫等はされておられますか？
	回答： そのカードが本人にとって必要性を感じるものかどうか、だと思います。本人と一緒に作らなければ、「持たされてる」という感覚になりますので、本人が必要と思うカードを本人と作ることが大事です。
	質問： 若年性認知症で就労されている方などではヘルプカードの利用は有効と思いますが、高齢者で認知症の進行してしまった場合にどう活用していったらいいでしょうか？
	回答： 高齢の方でも、目的（買い物等）のために何を支援してほしいのか、記載しておくことで活用できることがあります。あと、道に迷うことがあれば、自宅の近くに何があるか（コンビニ等）目印を伝えるといった使い方もあります。
本人 ミーティング	質問： 当事者と出会うきっかけはどんなものでしょうか。本人ミーティングを考えていますが、当事者とどうやって出会うのかという声があり、参考にさせて頂きたいです。
	回答： 推進員はすでに当事者と出会っている人がほとんどではないでしょうか？本人ミーティングはあくまで本人の声を聞く「手段」のひとつにすぎません。目の前にいる、すでに関わっている認知症の方こそ、当事者です。その方たちの声を聴くことから始めるといいと思います。
チームオレンジ	質問： 認知症の方の周辺症状で、近隣住民からの苦情が生じていて、排除の方向に動くリスクが起きています。 チームオレンジを作って支えていきたいと思っていますが、試行錯誤しています。警察の生活安全課や地域で関わりのある施設や公的機関などに相談や懇談に行き見守りをお願いしていますが、肝心のご近所とのコミュニケーションが一番難しいです。悩ましい状況です。
	回答： 「チームオレンジ」は、中心に「本人」がいることが重要です。その本人が安心して地域で暮らしていくためには何が必要なのか、本人の声・気持ちを中心に据えながら、チームで考えることで、周囲の理解につながることもあると思います。

ピアサポート	質問： ご本人の声を聴き、ご本人に寄り添いながら地域住民の皆さんと一緒に推進している様々な取り組み、参考になることがたくさんありました。ご家族支援について質問したいです。ご家族同士がピアサポートをし合うような取り組みや、そのきっかけづくりとして行ったことなど、アイディアがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いします。
	回答： 家族同士の交流をいきなり大きくやろうとしても難しいですが、例えば1人の認知症地域支援推進員が関わっている複数の家族同士をつないで情報共有する場を作る等の取り組みをしています。最初は2～3組ぐらいでスタートするのがいいと思います。
推進員の役割	質問： 認知症地域推進員と地域包括支援センターを兼務されている方が多いと思いますが、本市では認知症初期集中支援チーム員も兼務しており、認知症地域推進員としての役割を理解が難しいようで、負担感が大きいように思います。他の事業との連動もあるかと思いますが、どのように役割を整理されていますか。
	回答： 行政の推進員も委託の推進員も兼務をして、様々な業務・活動をしている。兼務しているからこそできることがあり、例えば包括ならば推進員をしている3職種の誰かのかかわりにより気付くことがあると思う。初期集中と推進員を兼務しているからと言って、業務を分けなくても良い。専任であるがために視野が狭くなるということもあるのではないだろうか。
推進員活動の運営	質問： わかる範囲、お話しできる範囲で教えてください。委託包括さんに質問です。大綱施行以降、認知症地域支援推進員に期待される役割が増えていると思いますが、推進員に対し、委託費は増額されていますか。または、成果によって委託費に加算がつく等の措置はありますか。私は行政職の地域支援推進員ですが、地域支援推進員の機能強化にあたって、現在委託費見直し検討中のため、他自治体の情報が知りたいです。
	回答： 私は直営包括の推進員ですが、当市では委託している推進員や事業所に委託費は出していません。認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちづくりに共感していただき、委託費がなくてもともに活動してくれるところに推進員を配置しています。
	質問： 認知症地域支援推進員を委託包括に配置されているとのことですが、地域包括支援センター業務に含まれているのでしょうか。別途、認知症事業として委託されているのでしょうか。
	回答： 当市では包括は直営1カ所のみで、あとは在宅介護支援センターや地域密着型事業所に配置をしています。認知症支援総合事業で委託をしています、委託費等は出していません。
	質問： 推進員の皆様にお尋ねしたいのですが、間もなく年度末ということで異動や退職をされる方もいらっしゃると思います。推進員を引退される場合、今現在で周りの方々には公表していらっしゃるのでしょうか？
	回答： 当市では特にしていません。
その他	質問： グッドストーリーについて教えてください。
	回答： 本人の視点からの関わりを重視し、その関わりが本人にとってより良い暮らしに繋がったとか、希望のある暮らしをしている事例です。

認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

～推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！～

活動報告への質問と回答（Q&A） 静岡県藤枝市 横山麻衣 氏

認知症の人の 希望をかなえる ヘルプカード	質問： 希望を叶えるヘルプカード、実際当事者のご家族から提案。協働して作成したのですが、なかなかご本人の外出時の持ち物として認識がされず実動の難しさを感じました。 何か工夫等はされておられますか？
	回答： ヘルプカードは本人が外出時等必要な場面で使うカードであるため、本人と作成することを基本とし、日頃どんな場所に出かけているか、その中で感じているバリア、配慮が必要な場面、伝えたいこと等を本人に丁寧に聞くことを心がけています。そこから必要なカードの内容や持ち方を一緒に考えます。持たされるのではなく、“本人が持つ”という視点が重要であると考えています。
	質問： 若年性認知症で就労されている方などではヘルプカードの利用は有効と思いますが、高齢者で認知症の進行してしまった場合にどう活用していったらいいでしょうか？
	回答： ヘルプカードは年齢に関係なく、本人が暮らしの中で必要な場面で使えるものであると捉えています。買い物に行き、帰りのタクシーに乗った際に住所を間違えて伝えてしまうことが重なり、住所を記載したカードを持つようになった方もいます。上記の質問とも同様になりますが、本人と活用を考えていくことが必要であると考えています。
本人 ミーティング	質問： 当事者と出会うきっかけはどんなものでしょうか。本人ミーティングを考えていますが、当事者とどうやって出会うのかという声があり、参考にさせて頂きたいです。
	回答： 大切なのは本人同士が出会える環境だと感じています。日頃から本人同士が出会ったり、安心して話せる環境作りを心がけています。1人と1人が出会いを大切にするとところから始めても良いと感じています。さまざまな場面で本人と出会えるチャンスがあると思います。実践してみたこととして、市のGPS事業（お出かけサポート位置情報サービス）を利用している本人に話を聞きに行ってみることや、本人と家族が窓口相談に来られること、包括と一緒に訪問すること、グループホームに出向いてみる等、日頃の業務や活動の中で、積極的に出かけていき本人と出会える機会を作れるよう心掛けています。（家族からの相談を重ねる中で、何度か本人にも会いたいことを伝えたら、本人と一緒に研修に参加してくれ、本人に会えたこともありました。）
ピアサポート	質問： ご本人の声を聴き、ご本人に寄り添いながら地域住民の皆さんと一緒に推進している様々な取り組み、参考になることがたくさんありました。ご家族支援について質問したいです。ご家族同士がピアサポートをしようような取り組みや、そのきっかけづくりとして行ったことなど、アイデアがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いします。
	回答： 家族支援についても、家族による個別相談（家族のピアサポート）の事業も行っています。 本人ミーティングと一緒に参加した家族が、他の当事者の話を聞いて、気づきに繋がる場面もありました。 また、若年性認知症の人と家族の交流会の場面でも、日頃の家族の悩みを本人や他の家族と一緒に考える事もあります。本人や家族同士が出会ったり、安心して話ができる環境作りを日頃から意識しており、1人と1人が出会いを大切にするとところから始めても良いと感じています。

推進員の役割	質問： 認知症地域推進員と地域包括支援センターを兼務されている方が多いと思いますが、本市では認知症初期集中支援チーム員も兼務しており、認知症地域推進員としての役割を理解が難しいようで、負担感が大きいように思います。他の事業との連動もあるかと思いますが、どのように役割を整理されていますか。
	回答： 本市では包括支援センターの立場を活かし、本人の声を丁寧に聞き、地域の中でこれまでの生活の継続や社会参加を続けられるよう伴走型の個別支援を行う中で、本人にとって必要な医療・介護・地域の連携によるネットワークづくりを役割としています。
推進員活動の運営	質問： 認知症地域支援推進員を委託包括に配置されているとのことですが、地域包括支援センター業務に含まれているのでしょうか。別途、認知症事業として委託されているのでしょうか。
	回答： 上記を役割として包括支援センター業務に含み配置をしています。
その他	質問： 本人の声を大事に進めておられるとのこと。行政に配置されているとのことですが、どのような機会を活用されていますか。私も行政配置ですが、直接相談を受けることが少なくどうつながりを作っていくか悩んでいます。
	回答： 本人の視点からの関わりを重視し、その関わりが本人にとってより良い暮らしに繋がったとか、希望のある暮らしをしている事例です。

認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

～推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！～

活動報告への質問と回答（Q&A） 新潟県燕市 力石雅博 氏

認知症症状への 対応	質問： 70代から認知症を発症された方の相談を受ける中、本人、「まだ高齢者ではない」という認識ながら記憶障害で今までできていた事ができず、紛失を繰り返し同居家族もその対応に苦慮されストレスが溜まっているということに対して、対処や家族のストレスを緩和できる手法について悩んでいます。当事者と向き合えるいい方法があれば教えていただきたい。
	回答： 板挟み状態で、悩み事も倍増しているのでしょうか。 一例ですが「まだ高齢者ではないという気持ち」に寄り添ってみるのはどうでしょうか？ 「まだ高齢者ではない」と言う言葉にはきっとたくさんの意味や葛藤があるのだと思います。 自分は認知症にはならない、やりたいことがある、しなければならないことがある、認知症と診断されたらおしまいだ、施設に入れられるのか？入院か？ポジティブネガティブ様々な想いで混乱しているところもあるのでは？という視点で、ご家族のいないところでお話を伺ってみるのも良いと思います。 今後どのように生きていくかを、ご本人と一緒に考えるパートナーになれると良いですね。 参考資料として、ネットで「読み方と活かし方」と検索し、ご一読ください。 『認知症の人の意思決定支援ガイドライン』 https://ham-ken.com/wp/?page_id=1340
認知症の人の 希望をかなえる ヘルプカード	質問： 希望を叶えるヘルプカード、実際当事者のご家族から提案。協働して作成したのですが、なかなかご本人の外出時の持ち物として認識がされず実動の難しさを感じました。 何か工夫等はされておられますか？
	回答： こちらではヘルプマークの裏側に必要事項を書いたシールを貼り、マーク自体はペンダントのようなおしゃれアイテムとして首から下げられている方がおられます。剥がれ易いとの欠点がありますが、ご本人は特に拒まれてはいないようです。
	質問： 若年性認知症で就労されている方などではヘルプカードの利用は有効と思いますが、高齢者で認知症の進行してしまった場合にどう活用していったらいいでしょうか？
	回答： 個別性が高いので一律にこれ！というのは難しいですが、「道に迷ったとしても、家族とはぐれてしまうとしても自由に出かけたいとの思いに応えるため」と言うことが第一に浮かびました。他には会話に難しいところがあれば、お一人になられている時に必要なサポートを記しておく必要があると思います。「私は気持ちをうまく言葉にできません、〇〇していれば××してください」という感じでしょうか？
本人 ミーティング	質問： 当事者と出会うきっかけはどんなものでしょうか。本人ミーティングを考えていますが、当事者とどうやって出会うのかという声があり、参考にさせていただきます。
	回答： いちばん簡単な方法は、介護施設へ行くことだと思います。他には認知症カフェに出かける、認知症の人と家族の会のつどいに参加するなど、こちらから出向くのが良いと思います。 上記の出会いの場は、自然に本人ミーティングの形になっています。 他にも初期集中支援チームや認知症サポート医との連携の中でも、認知症の人との出会いは可能かと思えますし、包括や行政の窓口にもたくさんの方が相談に来られますので、そこからの出会いもあります。 私は委託包括の職員であるので、包括の総合相談や所属法人の施設などでもお会いしていますし、ケアマネや包括の後方支援として依頼を受け、認知症の方の自宅に同行訪問することもあります。 その出会いからミーティングに繋ぐには、カフェや集いなどにご招待するなどの工夫が必要かと思えます。

チームオレンジ	質問： 認知症の方の周辺症状で、近隣住民からの苦情が生じていて、排除の方向に動くリスクが起きています。 チームオレンジを作って支えていきたいと思っていますが、試行錯誤しています。警察の生活安全課や地域で関わりのある施設や公的機関などに相談や懇談に行き見守りをお願いしていますが、肝心のご近所とのコミュニケーションが一番難しいです。悩ましい状況です。
	回答： ご近所から孤立しているような状況でしょうか。 そのような状況下ではご協力をいただくのは、話を持っていくだけでも大変かと思います。 詳細はわかりませんが、生活安全課の関わりもあるということからは、相当のことが起きているのでしょうか。 こちらでも同じような案件がありましたが、治療目的で入院という形をとられた方がおられました。 排除となると関係性はかなり悪化しているようですが、ご近所や町内全てが排除の方向なのでしょう？ 民生委員さんや自治会長さんなどは割とニュートラルな立場をとられるのでは思うのですが、やはり排除のお考えなのですかね。 どなたかお一人でも味方になってくれる方がおられると良い方向に向かうと思うので、まずは地域の人の集まるお店（チェーン店ではない地域密着型の食料品店など）などから、当たっていくのも一つの方法かと思いました。
ピアサポート	質問： ご本人の声を聴き、ご本人に寄り添いながら地域住民の皆さんと一緒に推進している様々な取り組み、参考になることがたくさんありました。ご家族支援について質問したいです。ご家族同士がピアサポートをしようような取り組みや、そのきっかけづくりとして行ったことなど、アイディアがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いします。
	回答： 「認知症介護の大変さは、知らない人には伝わらない」とよく介護中のご家族は口に出されています。 こちらでは認知症の人と家族の会のつどいや、一部の包括が行っている介護家族の会などがおっしゃられている取り組みに近いかと思います。家族会は歴史があるので割愛しますが、一部包括の取り組みは、関わりのあるご家族からのニーズをもとに始めています。こちらからの働きかけも大切ですが、実際に必要とされる方々をつないでいく方がよりピアな形になるのではないのでしょうか。 きっかけは認知症カフェに参加した時に、話している相手が介護者かどうかを伺い、介護者であれば「同じ思いを持たれている人と、一回話をしてみませんか？」と、介護の経験のある方であれば「ご自分の体験を、あれこれ悩んでいる現役介護家族にアドバイスとして話していただけますませんか？」と言うような言葉かけをしてみるのも良いと思います。
推進員の役割	質問： 認知症地域推進員と地域包括支援センターを兼務されている方が多いと思いますが、本市では認知症初期集中支援チーム員も兼務しており、認知症地域推進員としての役割を理解が難しいようで、負担感が大きいように思います。他の事業との連動もあるかと思いますが、どのように役割を整理されていますか。
	回答： 委託包括の推進員であり、初期集中支援チームのコーディネーターも兼務していますが、住み分けはしておらず、推進員の顔をしたたり、コーディネーターの顔をして動いているのが実情です。 直球で言えば「認知症」と名の付く事業はすべて範囲内と思っています。 初期集中支援チームでは市町村や包括と役割分担（会議録の作成や会議の進行、資料の準備や配布、ZOOMの準備等）をしています。 それ以外の事業でも問題提起、企画立案、実働、啓発・広報、様々な機関との連携、自地区以外の情報収集など、それぞれの得意分野がありますので、その都度相談して決めています。 確かに負担感是有りますが、それ以上に協働することで新たな気づきや繋がりが出来るのも事実ですし、沢山の人や機関、地域を繋いで行くことも推進員の大切な役割だと思っています。 整理の仕方ですが、そう簡単に分類整理は出来ないのでも「全ては繋がっている、単独で存在するものはない」と思って、目の前の出来事に向かい合っています。

推進員活動の 運営	質問： わかる範囲、お話しできる範囲で教えてください。委託包括さんに質問です。大綱施行以降、認知症地域支援推進員に期待される役割が増えていると思いますが、推進員に対し、委託費は増額されていますか。または、成果によって委託費に加算がつく等の措置はありますか。私は行政職の推進員ですが、推進員の機能強化にあたって、現在委託費見直し検討中のため、他自治体の情報が知りたいです。
	回答： 毎年のように新しいことが増え、仕事をすればするほど仕事が増えるという状況です。 委託費の増額は有りませんが、削減とならないよう担当課の皆さんが頑張ってくださっています。 また8年間一人推進員でしたが、来年度から一人増員となり、委託費もそれに合わせて増額となります。
	質問： 認知症地域支援推進員を委託包括に配置されているとのことですが、地域包括支援センター業務に含まれているのでしょうか。別途、認知症事業として委託されているのでしょうか。
	回答： 包括事業と推進員事業（認知症総合支援事業）として別々に法人が受託しています。 組織図上、推進員は常勤専任での配置であり、包括とは別事業となっています。 基本的には包括業務は行いませんが、土日は自包括での勤務となりますので電話の対応や事務所の掃除、状況によっては包括職員と緊急出動はしたこともあります。
	質問： 推進員の皆様にお尋ねしたいのですが、間もなく年度末ということで異動や退職をされる方もいらっしゃると思います。推進員を引退される場合、今現在で周りの方々には公表していらっしゃるのでしょうか？
	回答： 今現在は有りません。 これまでに他市町村の推進員が退職、または異動、転職する時にご連絡をいただいたことがあります。大抵は退職当日や退職日の1週間前ということが多かったように記憶しています。 今年度はお一人の方から、退職される日の10日前にご挨拶をいただきました。 所属部署での正式発表後に連絡をいただいたと思っています。

認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

～推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！～

活動報告への質問と回答（Q&A） 愛知県名古屋市 杉本一美 氏

認知症症状への 対応	質問： 70代から認知症を発症された方の相談を受ける中、本人、「まだ高齢者ではない」という認識ながら記憶障害で今までできていた事ができず、紛失を繰り返し同居家族もその対応に苦慮されストレスが溜まっているということに対して、認知症状からの問題への対処や家族のストレスを緩和できる手法について悩んでいます。当事者と向き合えるいい方法があれば教えていただきたい。
	回答： 認知症状を抱えるご本人は困っていないが、周りの家族等は困っているというケースの相談は、本当に多いと感じています。実は、本人は自分自身の変化に気が付いていて、でも、認めたくない、受け入れられないという状況なのではないかと感じています。周りは本人にわからせようとする、そのことが、さらに本人をかたくなにしてしまうのではないかと思います。私は、まずは本人と話をすることが一番かなと思います。そこからしか始まらないと思います。何か聞き出そうとか課題を探ろうとかいう姿勢ではなく、一人の人として、世間話から本人が好きなこと、大切にしていることなど一緒に話ができたらいいのではないかと思います。その話の中で、「なんだか、最近忘れやすくてね」とか「家族に怒られてばかりいるんだよ」とか、本人が自分の思いを話されると思います。そこから、広げていくことができると思います。また、そんな本人の思いを家族に伝え、一緒に考える土台にできたらいいのではないのでしょうか。
認知症の人の 希望をかなえる ヘルプカード	質問： 希望を叶えるヘルプカード、実際当事者のご家族から提案。協働して作成したのですが、なかなかご本人の外出時の持ち物として認識がされず実動の難しさを感じました。 何か工夫等はされておられますか？
	回答： なかなか実際の外出の場面での利用は広がっていませんが、先日、当事者の交流会で実際に“希望を叶えるヘルプカードを携帯して街を歩いてみる”活動をしました。実際に使ってみてどうだったかの振り返りをしました。本人が必要、役に立ったという実感を持てるような機会を増やすことができたと思います。
	質問： 若年性認知症で就労されている方などではヘルプカードの利用は有効と思いますが、高齢者で認知症の進行してしまった場合にどう活用していったらいいのでしょうか？
	回答： 希望を叶えるヘルプカード、ヘルプマーク、ヘルプカード、それぞれ使い方によって使い分けるといいと思います。ヘルプマークをつけて外出することだけでも、周りの方の見守りにつながります。また、ヘルプマークの裏に本人の支援してほしいことを書くことができるようになっています。私たちはそれぞれのカードの目的をより多くの人に知ってもらえるような普及・啓発活動を地道に続ける必要があると感じています。あまり答えになっていなくてすみません。
本人 ミーティング	質問： 当事者と出会うきっかけはどんなものでしょうか。本人ミーティングを考えていますが、当事者とどうやって出会うのかという声があり、参考にさせていただきます。
	回答： 当事者と会う機会がない…という声をよく耳にします。推進員は直接会う機会がなくても、一緒に活動している人たちはたくさんのお会いがあるのではないかと思います。また、本人ミーティングも当事者と出会いたいと思う本人がいて始まると思います。出会いたい当事者同士2人から本人ミーティングを始めていくことも必要かと思っています。

チームオレンジ	質問： 認知症の方の周辺症状で、近隣住民からの苦情が生じていて、排除の方向に動くリスクが起きています。 チームオレンジを作って支えていきたいと思っていますが、試行錯誤しています。警察の生活安全課や地域で関わりのある施設や公的機関などに相談や懇談に行き見守りをお願いしていますが、肝心のご近所とのコミュニケーションが一番難しいです。悩ましい状況です。
	回答： どこの地域からも聞こえる話だと思います。なかなか難しいかと思いますが…認知症地域支援推進員の方たちには「認知症の当事者が住み慣れた地域で暮らせない壁」を考え、そこに関わっていくことの大切さをお伝えしています。認知症の人を排除する要因は何か、ご近所の声にもしっかり耳を傾ける一方で、認知症の人が地域で暮らし続ける取り組みについて、丁寧に伝えていくことや地域の人々の不安や困りごとをどう解消していくかを一緒に考える場を持つことも必要かと思います。時間も労力もいると思いますが…まずは、周辺症状の原因と本人の認知機能や生活環境を丁寧にアセスメントしてみるのもよいかと思います。
ピアサポート	質問： ご本人の声を聴き、ご本人に寄り添いながら地域住民の皆さんと一緒に推進している様々な取り組み、参考になることがたくさんありました。ご家族支援について質問したいです。ご家族同士がピアサポートをしようという取り組みや、そのきっかけづくりとして行ったことなど、アイデアがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いします。
	回答： 名古屋市では地域包括支援センターで毎月家族サロンを開催しています。地域の身近な場所で交流できる貴重な場になっているセンターもあり、そこから家族が認知症カフェで家族の話を聞くという活動に広がったというセンターもあります。また、当センターでは若年性認知症本人・家族交流会「あゆみの会」に参加している家族を中心に不定期ですが家族の集いを開催しています。家族から「家族同士でもっと情報交換や勉強をしたい」「新しく参加された家族の力になりたい」という声が上がったことがきっかけです。
推進員の役割	質問： 認知症地域推進員と地域包括支援センターを兼務されている方が多いと思いますが、本市では認知症初期集中支援チーム員も兼務しており、認知症地域推進員としての役割を理解が難しいようで、負担感が大きいように思います。他の事業との連動もあるかと思いますが、どのように役割を整理されていますか。
	回答： 名古屋市の相談支援センターで勤務している。行政と委託包括の中核的な、中間管理職のような立場である。報告された推進員が話されていたように、認知症の本人の言葉を大事にしてその人が望む暮らしをどのように一緒に実現していくか。その小さな積み重ねが街づくりであると感じた。行政の方々には、推進員の小さな取り組みを評価していただきたい。沢山ある事業をすることを評価すると、推進員が事業をやる人になってしまい、街づくりにつながらなくなる。谷口氏からグッドストーリーという話を聞いて、名古屋市でも推進員から毎月グッドストーリーを挙げてもらうようにしている。そういったように、行政の方は推進員の方々の声を聞くようにし、どのようなことが地域で起こっているのか情報収集をする。そのことで機能強化、推進員を孤立させないことにつながっている。
推進員活動の運営	質問： 認知症地域支援推進員を委託包括に配置されているとのことですが、地域包括支援センター業務に含まれているのでしょうか。別途、認知症事業として委託されているのでしょうか。
	回答： 名古屋市では、推進員は委託型地域包括支援センターに1名ずつ配置しています。地域包括の業務と推進員の業務を兼務しています。
	質問： 推進員の皆様にお尋ねしたいのですが、間もなく年度末ということで異動や退職をされる方もいらっしゃると思います。推進員を引退される場合、今現在で周りの方々には公表していらっしゃるのでしょうか？
	回答： 名古屋市では、推進員は委託型地域包括支援センターに1名ずつ配置しています。法人によっては異動があります。また、退職や組織内での体制等で推進員がかわる場合もあります。その場合は、しかるべきタイミングで周りの方にお伝えし、引継ぎをしています。

認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

～推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！～

活動報告への質問と回答（Q&A） 神奈川県大和市 石毛幸子 氏

認知症症状への 対応	質問： 70代から認知症を発症された方の相談を受ける中、本人、「まだ高齢者ではない」という認識ながら記憶障害で今までできていた事ができず、紛失を繰り返し同居家族もその対応に苦慮されストレスが溜まっているということに対して、対処や家族のストレスを緩和できる手法について悩んでいます。当事者と向き合えるいい方法があれば教えていただきたい。
	回答： なかなか理想のように進まないことはあると思いますが、まずは、認知症により失敗が繰り返されることが、ご本人にとってどのようなことなのか、ということ正しい知識を持ってもらうことは必要だと思います。認知症についてのイメージが専門職とは違うと思うので、当たり前のことかもしれないですが、基本的な事を理解してもらうことは、重要な事だと感じます。 担当地区では、専門職が口出しをしないピアカウンセリングの場として「ケアラズカフェ」を毎月開催していますので、認知症の家族の対応に悩む方はこちらを案内しています。専門職からのアドバイスだけでは、家族も精神的に疲れてしまうと思うので、レスパイトの意味も含めてお誘いしています。危険にならない程度の日々のトライ＆エラーを共有、共感するにはとても良い場だと、参加している介護者からの感想も聞かれます。 大和市では、公認心理士による「介護者個別相談会」があり、家族の人生も大事、という視点で助言、提案をする相談会などもあり、必要に応じて紹介しています。
認知症の人の 希望をかなえる ヘルプカード	質問： 希望を叶えるヘルプカード、実際当事者のご家族から提案。協働して作成したのですが、なかなかご本人の外出時の持ち物として認識がされず実動の難しさを感じました。 何か工夫等はされておられますか？
	回答： 東京センターで作成された「希望を叶えるヘルプカード」を市ホームページで周知し、ダウンロードできるようにしています。活用の程度は把握できておりませんが、認知症の方が安心して外出するためのツールとして、「希望を叶えるヘルプカード」を、SOSネットワーク登録者が加入する賠償責任保険事業の案内などに同封することについて検討中です。
	質問： 若年性認知症で就労されている方などではヘルプカードの利用は有効と思いますが、高齢者で認知症の進行してしまった場合にどう活用していったらいいのでしょうか？
	回答： 家族の連絡先、ピンポイントで手伝ってもらいたいことなどを記入（「希望を叶えるヘルプカード」を前提にして書きました）。もしかすると、赤いヘルプマークのカードのことでしょうか？
本人 ミーティング	質問： 当事者と出会うきっかけはどんなものでしょうか。本人ミーティングを考えていますが、当事者とどうやって出会うのかという声があり、参考にさせていただきます。
	回答： 委託包括で兼務ですので、個別に相談が入ります。家族からの相談だけでなく、老人会や自治会、民生委員、サポーターなど、さまざまなネットワークを通じて情報が入りますので、相談窓口機能だけを頼るのではなく、ネットワーク作りによる効果も大きなものです。相談窓口を知らなくても、つながりがあれば、会話の中からも対象者と出会うきっかけは生まれると思います。

チームオレンジ	質問： 認知症の方の周辺症状で、近隣住民からの苦情が生じていて、排除の方向に動くリスクが起きています。チームオレンジを作って支えていきたいと思っていますが、試行錯誤しています。警察の生活安全課や地域で関わりのある施設や公的機関などに相談や懇談に行き見守りをお願いしていますが、肝心のご近所とのコミュニケーションが一番難しいです。悩ましい状況です。
	回答： 地域性もあると思いますが、ご近所のキーパーソン的な存在があれば、そこへのアプローチも有効かと思います。 困り事がどこに寄せられる地域なのか。例えば自治会長さん、民生委員さん、婦人部など、ご近所とのつながり役を担ってくださる方が支援の中核とつながりを持つことが、大事に思います。 警察や公的機関との相談も重要だと思いますが、近所にとって、そこが安心感を得られる拠り所や、信頼のおける場所になっている必要があるのかなと思います。そうでない場合、自分事にはなりにくいかもしれません。 私は包括の兼務ですので、地域ケア会議を開催すると思います。過去に自地域でも同様の事例があり、地域ケア会議を開催しました。そこでは、なぜ地域が排除しようとするか、「不安」があることに気が付きました。必要なのは、不安の解消、情報だったことがわかり、そこに対応し、支援が良い方向に進んだ経験があります。
ピアサポート	質問： ご本人の声を聴き、ご本人に寄り添いながら地域住民の皆さんと一緒に推進している様々な取り組み、参考になることがたくさんありました。ご家族支援について質問したいです。ご家族同士がピアサポートをしようという取り組みや、そのきっかけづくりとして行ったことなど、アイディアがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いします。
	回答： 委託包括と兼務ですが、包括の事業である介護者教室の場を活用しました。講師によるミニレクチャーをする時間を半分、その後、講師を交えて、普段の介護の話しや、講師に聞いてみたいことなど、フリートーク出来る時間を半分、というかたちで進めました。 当初は単発的な取り組みとなっていましたが、その後、同法人内の居宅のケアマネに担当のご家族から「同じ境遇にある人だけで話をしたい」という相談がり、試行的に取り組みが始まり、包括が定期開催する方法に移行しました。 担当地区が広いこともあり、参加者の会場アクセスを考え、2会場で開催し、1会場は包括で、もう1会場は地域内の介護保険事業所の空きスペースをお借りし、事業所の職員にも協力いただき、年に数回、介護者教室とは別にミニレクチャーなども実施しました（おむつ交換の方法、自動採尿器のデモ、など）。
推進員の役割	質問： 認知症地域推進員と地域包括支援センターを兼務されている方が多いと思いますが、本市では認知症初期集中支援チーム員も兼務しており、認知症地域推進員としての役割を理解が難しいようで、負担感が大きいように思います。他の事業との連動もあるかと思いますが、どのように役割を整理されていますか。
	回答： 大和市の認知症初期集中支援チームは、「市職員（メイン）+各地域包括支援センターの職員」で構成しています。チーム活動の主は市職員が担い、担当地区の対象者への支援にのみ地域包括支援センターのチーム員が参加するよう分担されています。

推進員活動の 運営	質問： わかる範囲、お話しできる範囲で教えてください。委託包括さんに質問です。大綱施行以降、地域支援推進員に期待される役割が増えていると思いますが、地域支援推進員に対し、委託費は増額されていますか。または、成果によって委託費に加算がつく等の措置はありますか。私は行政職の地域支援推進員ですが、地域支援推進員の機能強化にあたって、現在委託費見直し検討中のため、他自治体の情報が知りたいです。
	回答： 推進員の人件費に相当する委託費は増額されていませんが、令和5年度から包括支援センターの実施する認知症に関する事業（チームオレンジ、認知症カフェ、介護者交流会）について別途委託する形をとることから実質的な増額が予定されています。
	質問： 認知症地域支援推進員を委託包括に配置されているとのことですが、地域包括支援センター業務に含まれているのでしょうか。別途、認知症事業として委託されているのでしょうか。
	回答： 推進員の人件費相当が地域包括支援センターの委託に含まれています。各包括支援センターが認知症に関する取組に注力し、認知症カフェや介護者交流会を開催し、増回していくなかで、事業費が増加傾向となっていることから、令和5年度からは一部の認知症関連事業について別途事業委託される予定です（チームオレンジ、認知症カフェ、介護者交流会）。
	質問： 推進員の皆様にお尋ねしたいのですが、間もなく年度末ということで異動や退職をされる方もいらっしゃると思います。推進員を引退される場合、今現在で周りの方々には公表していらっしゃるのでしょうか？
	回答： 行政へ事前に内々で報告のみしているケースや、年度末に向け後任となる職員を推進員連絡会や取組に参加させるケースなど包括支援センターにより対応は様々です。大和市では年度末に法人に対して地域包括支援センター業務説明会が開催され、次年度の推進員の業務を説明するほか、推進員の活動手引きを作成していることから、引継ぎはスムーズに行われています。
その他	質問： ロードマップについて、活動内容を具体化したり評価したりしているものなのでしょうか？イメージの共有のために活用されているものなのでしょうか？
	回答： 推進員同士が活動のイメージとゴール（目標）を共有し、過程やその結果の検証を記録していくものです。ロードマップ作成により、部会活動の目的が「チーム作り」ではなく、「認知症の人のやりたいことや希望を叶えるための活動」であることに立ち返ることができます。また、ロードマップ作成によって、推進員の間に前向きな気持ちや一体感が生まれたように感じます。

認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

～推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！～

活動報告への質問と回答（Q&A） 静岡県富士宮市 杉浦綾乃 氏

認知症症状への 対応	質問： 70代から認知症を発症された方の相談を受ける中、本人、「まだ高齢者ではない」という認識ながら記憶障害で今までできていた事ができず、紛失を繰り返し同居家族もその対応に苦慮されストレスが溜まっているということに対して、対処や家族のストレスを緩和できる手法について悩んでいます。当事者と向き合えるいい方法があれば教えていただきたい。
	回答： 「まだ高齢者ではない」という発言はこの相談のどことつながるのでしょうか？高齢に関係なく、「今までできていたことができず」「紛失を繰り返す」の解決を何かサービスで補おうとしているのであれば本人は納得できていないかと思います。家族も今までと違う家族の姿に戸惑っているのではないかなと思います。背景がわからないので、何とも言えませんが、問題への対処をしようと考えずに、本人と家族とよく話をすること（困りごとだけにスポットを当てない）、時間を共にすることを大切にできたらいいのではないかと思います。
認知症の人の 希望をかなえる ヘルプカード	質問： 若年性認知症で就労されている方などではヘルプカードの利用は有効と思いますが、高齢者で認知症の進行してしまった場合にどう活用していったらいいでしょうか？
	回答： 本人の生活にとって必要であれば、年齢関係なく利用に向けて一緒に考えています。必要がないのであれば利用しなくていいと思います。
本人 ミーティング	質問： 当事者と出会うきっかけはどんなものでしょうか。本人ミーティングを考えていますが、当事者とどうやって出会うのかという声があり、参考にさせて頂きたいです。
	回答： 各相談機関（包括・医療）などに来た際。近所の人からの情報。認知症カフェなど。
チームオレンジ	質問： 認知症の方の周辺症状で、近隣住民からの苦情が生じていて、排除の方向に動くリスクが起きています。チームオレンジを作って支えていきたいと思っていますが、試行錯誤しています。警察の生活安全課や地域で関わりのある施設や公的機関などに相談や懇談に行き見守りをお願いしていますが、肝心のご近所とのコミュニケーションが一番難しいです。悩ましい状況です。
	回答： 一筋縄にはいきませんが、ご近所さんに本人のことを受け入れてくれとお願いするのではなく、相談に行っています。ご近所なりの理由もあるはずなので、双方とのすり合わせに時間をかけています。わが町ではチームオレンジはその延長で、チームオレンジを作ろうと動くことはしないと思います。
ピアサポート	質問： ご本人の声を聴き、ご本人に寄り添いながら地域住民の皆さんと一緒に推進している様々な取り組み、参考になることがたくさんありました。ご家族支援について質問したいです。ご家族同士がピアサポートをしようような取り組みや、そのきっかけづくりとして行ったことなど、アイディアがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いします。
	回答： 本人同士、家族同士ともにですが、認知症カフェで出会うことが多いです。カフェの情報提供のタイミングですが、窓口への相談や医療機関からの紹介が多いです。

推進員の役割	質問： 認知症地域推進員と地域包括支援センターを兼務されている方が多いと思いますが、本市では認知症初期集中支援チーム員も兼務しており、認知症地域推進員としての役割を理解が難しいようで、負担感が大きいように思います。他の事業との連動もあるかと思いますが、どのように役割を整理されていますか。
	回答： 行政の専属推進員をしている。推進員の機能強化という視点で、どのような配置形態が良いのか考えていた。今回の老健事業ワーキングチームや報告会話を聞き、どの配置が良いという答えを出す報告会ではなく、会話から活動が生まれているということから、「様々な地域で推進員が本人や家族、地域の方と共に過ごすことが出来ること」を機能強化とする、それが配置形態になると感じた。
推進員活動の運営	質問： 認知症地域支援推進員を委託包括に配置されているとのことですが、地域包括支援センター業務に含まれているのでしょうか。別途、認知症事業として委託されているのでしょうか。
	回答： 委託包括の認知症地域支援推進員は兼務です。

認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

～推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！～

活動報告への質問と回答（Q&A） 北海道千歳市 作田直人 氏

認知症症状への 対応	質問： 70代から認知症を発症された方の相談を受ける中、本人、「まだ高齢者ではない」という認識ながら記憶障害で今までできていた事ができず、紛失を繰り返し同居家族もその対応に苦慮されストレスが溜まっているということに対して、対処や家族のストレスを緩和できる手法について悩んでいます。当事者と向き合えるいい方法があれば教えていただきたい。
	回答： 既になさっているとは思いますが、ご本人の出来ること出来ないことを正しく理解すること、ご家族がご本人の認知症状についてどの程度正しく理解しているのかを把握し、ご本人・ご家族と一緒に考えていくのはどうでしょうか？ご本人はまだ高齢者ではないとの思いと現状のギャップに対する不安や焦りもあると思います。その中で自身が自分らしく出来ることややりたいことに対してどのようなサポートがあれば可能なのかをご本人と一緒に考えていくことが良いかと思います。 またご家族のストレスについては、ご本人の行動がなぜ起こるのかを正しく理解することと、ご家族の思いを共有出来る環境（家族会など）があると良いと思います。
認知症の人の 希望をかなえる ヘルプカード	質問： 希望を叶えるヘルプカード、実際当事者のご家族から提案。協働して作成したのですが、なかなかご本人の外出時の持ち物として認識がされず実動の難しさを感じました。 何か工夫等はされておられますか？
	回答： 作成にあたり、ご本人からのご意見も反映しているでしょうか？当市では作成にあたり、ご本人の声を元に作成し、実際に携帯してもらった後のご意見を参考にブラッシュアップをしました。当市では推進員が作成したカード自体の普及はあまり進んでいませんが、自作のカードを携帯している方もいて、その方に無理に推進員のカードを勧めることはしません。カードはご本人が「備え」として認識し、携帯することに意味があり、家族や支援者に持たされているとの思いがあれば、認識が難しいと思います。後はカードケースは自分で選ぶなど、自分の意思を何らかの形で反映させることだと思います。
	質問： 若年性認知症で就労されている方などではヘルプカードの利用は有効と思いますが、高齢者で認知症の進行してしまった場合にどう活用していったらいいでしょうか？
	回答： 年齢の問題ではなく、ご本人が何をしたいのか？そのための備えやツールとしてカードを持つことが有効ではないか？に焦点をあてる方がより活用出来ると思います。当市でカードを活用されている方は80代の方であり、年齢ではなく、認知症の進行状況によると思います。また進行状況に応じて本人が生活の中で何を必要としているのか？に合わせた内容に変更していくことでカードを継続して使用することが出来ると思います。
本人 ミーティング	質問： 当事者と出会うきっかけはどんなものでしょうか。本人ミーティングを考えていますが、当事者とどうやって出会うのかという声があり、参考にさせて頂きたいです。
	回答： 本人ミーティングは、ご本人が望む時に必要となるものだと思います。「本人ミーティング」という「箱」を作ること自体を目的としまうと、継続が難しくなることや参加されるご本人が「利用されている」と感じてしまうこともあります。また当事者と出会うきっかけとありますが、普段の業務で接している当事者の方はたくさんいると思います。壇上に立ち認知症であることを話す人が当事者なのではなく、日常で認知症と診断を受けても生活を送られている方皆さんが当事者だと思います。まずは普段出合っているご本人たちから聞いた声を改めて聞いてみてください。その中に活動のきっかけがあると思います。

チームオレンジ	質問： 認知症の方の周辺症状で、近隣住民からの苦情が生じていて、排除の方向に動くリスクが起きています。 チームオレンジを作って支えていきたいと思っていますが、試行錯誤しています。警察の生活安全課や地域で関わりのある施設や公的機関などに相談や懇談に行き見守りをお願いしていますが、肝心のご近所とのコミュニケーションが一番難しいです。悩ましい状況です。
	回答： 難しい問題だと思います。症状による第三者への被害妄想などが行動として現れると、どうしても排除の動きが出てしまうのはどこの地域でも起こりうることだと思います。あくまで私であればですが、まず本人が何をしたいのか？それに応じて連携している機関とどのような動きがとれるのか？認知症に対する知識や対応方法とともにその思いを近隣住民の方に伝えていく方法を地道ですが取り組んでいくと思います。
ピアサポート	質問： ご本人の声を聴き、ご本人に寄り添いながら地域住民の皆さんと一緒に推進している様々な取り組み、参考になることがたくさんありました。ご家族支援について質問したいです。ご家族同士がピアサポートをし合うような取り組みや、そのきっかけづくりとして行ったことなど、アイデアがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いします。
	回答： 当市では推進員発足時に市内に家族会がありました。推進員も家族会に足繫く通い、イベントや個別相談、訪問などで連携を図るようにしていました。まずは顔の見える関係を作っていくことが大切だと思います。
推進員の役割	質問： 認知症地域推進員と地域包括支援センターを兼務されている方が多いと思いますが、本市では認知症初期集中支援チーム員も兼務しており、認知症地域推進員としての役割を理解が難しいようで、負担感が大きいように思います。他の事業との連動もあるかと思いますが、どのように役割を整理されていますか。
	回答： 認知症地域支援推進員や認知症初期集中支援チームのすみわけをする必要があるのか、と考える。兼務しているのであれば、本人がやりたいこと、ニーズに合っている方で動けばよいのではないだろうか。ご本人にとってどちらが良いのかというのを考えて、立場を使い分けながら活動をしている。その為、訪問をした時に推進員の実績で上げるときもあれば、初期集中支援チームであげることもある。その点は行政に相談して、ある程度自由に動くことができています。
推進員活動の運営	質問： わかる範囲、お話しできる範囲で教えてください。委託包括さんに質問です。大綱施行以降、地域支援推進員に期待される役割が増えていると思いますが、地域支援推進員に対し、委託費は増額されていますか。または、成果によって委託費に加算がつく等の措置はありますか。私は行政職の地域支援推進員ですが、地域支援推進員の機能強化にあたって、現在委託費見直し検討中のため、他自治体の情報が知りたいです。
	回答： 当市は医療法人に委託され、包括と疾患医療センターに配置されています。当市では何度か委託費を増額されていますが、行政担当者と打ち合わせを行い、該当年度に何を計画しているのかによって増減を推進員・行政それぞれの立場から話をして決めています。イベントや配布物など、取り組みに応じた経費を上乗せする形で増額してもらっています。
	質問： 認知症地域支援推進員を委託包括に配置されているとのことですが、地域包括支援センター業務に含まれているのでしょうか。別途、認知症事業として委託されているのでしょうか。
	回答： 当市では、包括業務とは別途総合支援事業として委託を受けております。ですので、推進員は包括の三職種から外れた形で配置されています。
	質問： 推進員の皆様にお尋ねしたいのですが、間もなく年度末ということで異動や退職をされる方もいらっしゃると思います。推進員を引退される場合、今現在で周りの方々には公表していらっしゃるのでしょうか？
	回答： 当市では一度交代がありましたが、公表しています。前推進員は市内別圏域の包括にいるため、元推進員としての顔も活かした連携を続けています。

認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

～推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！～

活動報告への質問と回答（Q&A） 新潟県湯沢町 国松明美氏・林君江氏

認知症症状への対応	質問： 70代から認知症を発症された方の相談を受ける中、本人、「まだ高齢者ではない」という認識ながら記憶障害で今までできていた事ができず、紛失を繰り返し同居家族もその対応に苦慮されストレスが溜まっているということに対して、対処や家族のストレスを緩和できる手法について悩んでいます。当事者と向き合えるいい方法があれば教えていただきたい。
	回答： 家族の困りごとを切り口にするのではなく、ご本人の生活（今までどのように暮らされてきたのか、何を大事にしているのか、楽しみや継続している習慣は何だろう…）とか様々なお話を複数でご家族から聞いて（人によってとらえ方が違うのと、ご家族の話をしっかり聞くことでご家族自身が自分の気持ちに気づきます）、ご本人に会うときのヒントを得て、家族に相談を受けたから訪問したという雰囲気にならないようにご本人の散歩時間に通りすぎりの人みたいな感じで関係を作っていった経験があります。本人に関わる友人やアクション農園のメンバーが〇〇さんチームを作ってチーム員になってみんなで知恵を出し合い細かな変化や情報を共有（スーパーであった時等の普段の様子なども）して関係性が作れるまでは本当に細かく対応していきました。関係ができるとスーッと落ち着いてきました。あくまで私たちの経験ですが。
認知症の人の希望をかなえるヘルプカード	質問： 希望を叶えるヘルプカード、実際当事者のご家族から提案。協働して作成したのですが、なかなかご本人の外出時の持ち物として認識がされず実動の難しさを感じました。 何か工夫等はされておられますか？
	回答： 湯沢町はヘルプカードを作成していません。ご本人の生活に役立ち活用できるものがカードであれば作成しますが、本人が行く場所で見守ったり支援可能な人を探してお願いすることのほうが多いような気がします。
	質問： 若年性認知症で就労されている方などではヘルプカードの利用は有効と思いますが、高齢者で認知症の進行してしまった場合にどう活用していったらいいでしょうか？
	回答： 同上
本人ミーティング	質問： 当事者と出会うきっかけはどんなものでしょうか。本人ミーティングを考えていますが、当事者とどうやって出会うのかという声があり、参考にさせていただきます。
	回答： 本人を集めるミーティングが有効な場合もあると思うのですが、ミーティングはさておき、行きたいと思う場所での出会い、声を集めたり、事業やサービスで集まっているときにお楽しみ手段をもってお邪魔したりして声集めをしました。（例えば、認知症DSの手作りおやつメニューのときにお菓子作りの地域支援者みたいな感じで）ミーティングをしなくちゃと思うと私達自身がつらいので。
チームオレンジ	質問： 認知症の方の周辺症状で、近隣住民からの苦情が生じていて、排除の方向に動くリスクが起きています。 チームオレンジを作って支えていきたいと思っていますが、試行錯誤しています。警察の生活安全課や地域に関わりのある施設や公的機関などに相談や懇談に行き見守りをお願いしていますが、肝心のご近所とのコミュニケーションが一番難しいです。悩ましい状況です。
	回答： 排除して楽になりたいという地域の気持ちをまずはしっかり受け止めますが、やはり本人が安心して暮らせるにはどうしたらよいのか、本人への対応を複数の人で検討します。いろいろな立場の人がつながって〇〇さんのチームができますが、生活支援をするチームオレンジとはちょっと違います。

ピアサポート	質問： ご本人の声を聴き、ご本人に寄り添いながら地域住民の皆さんと一緒に推進している様々な取り組み、参考になることがたくさんありました。ご家族支援について質問したいです。ご家族同士がピアサポートをし合うような取り組みや、そのきっかけづくりとして行ったことなど、アイディアがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いします。
	回答： アクション農園を始めるまでは介護者のつどいを実施していましたが、なかなかタイムリーではなく参加者も限られ介護者にとって必要としている集まりではない感じがしていました。アクション農園が始まり、初めは本人だけを参加させていた家族が本人の楽しそうな様子から自分も一緒に行きたいと来るようになって、本人と離れて介護者同士が話していたり、参加者と話すことで情報を得たり、リフレッシュしている様子があり常時あって誰かと話をできる場所を家族も求めていることがわかりました。ご本人がサービス利用中や施設入所した後も家族が立ち寄ることも多いです。
推進員の役割	質問： 認知症地域推進員と地域包括支援センターを兼務されている方が多いと思いますが、本市では認知症初期集中支援チーム員も兼務しており、認知症地域推進員としての役割を理解が難しいようで、負担感が大きいように思います。他の事業との連動もあるかと思いますが、どのように役割を整理されていますか。
	回答： 役割の整理は特に意識していません。その時その時でどの看板で行動したらやりやすいか有効か考えます。看板をたくさんしょっているほうがやりやすいことも多いようです。
推進員活動の運営	質問： わかる範囲、お話しできる範囲で教えてください。委託包括さんに質問です。大綱施行以降、地域支援推進員に期待される役割が増えていると思いますが、地域支援推進員に対し、委託費は増額されていますか。または、成果によって委託費に加算がつく等の措置はありますか。私は行政職の地域支援推進員ですが、地域支援推進員の機能強化にあたって、現在委託費見直し検討中のため、他自治体の情報が知りたいです。
	回答： 委託はありません。
	質問： 認知症地域支援推進員を委託包括に配置されているとのことですが、地域包括支援センター業務に含まれているのでしょうか。別途、認知症事業として委託されているのでしょうか。
	回答： 委託はありません。
	質問： 推進員の皆様にお尋ねしたいのですが、間もなく年度末ということで異動や退職をされる方もいらっしゃると思います。推進員を引退される場合、今現在で周りの方々には公表していらっしゃるのでしょうか？
	回答： 推進員に限らず次に引き継ぐ人との関係づくりを始めて、ご本人家族が不安なく生活できるように心がけてはいます。

アクション農園	質問： 畑までの移動手段や送り迎えなどはどうされたのでしょうか？行政からすると送迎はいろいろとハードルが高く感じています。
	回答： 家族や知人、担当ケアマネはモニタリングを兼ね、農園メンバーなどできる人がします。担当者を固定しないので機会ごとに誰がするか決めます。（決めたほうが良い場合は決めますが決めることで自身の予定が制限されて負担になる人もいるので）どうしても都合が合わないときは私たちがします。普段の自分たちの日常生活と同様です。
	質問： アクション農園は土地をどのような形で借りているのでしょうか。また、活動時は推進員含め推進役などが必ず居る体制にしているのですか？
	回答： 土地はアクション農園に賛同してくれた地主さんの休耕地と一緒に活用させていただいています。無償です。 農園の日（毎週火曜日8時50分位から11時半位まで）は誰か来るかもしれないので少雨程度であれば必ず誰かがいます。（いれるひとがいます）悪天候で無理そうな時は最近Line（農園グループ）でつながったので連絡しあいます。連絡が取れない人には電話します。Lineを使って健康を気遣ったり、必要な情報を伝えあったりするようになりました。農園の場面以外のつながりが広がりつつあります。
	質問： 1 点目は推進役の方々は、推進役と認識されていたり、推進役登録管理とかされているのでしょうか？それとも、住民のインフォーマルな協力という位置づけでしょうか。 2 点目は農園とケアパス以外の事業化されているものは他にどんなものがありますか？農園に来たくても来れない方（アクセス的に）のサポートはどうされていますか？
	回答： 推進役として認識したほうが活動の広がりや深まりは進むのかもしれませんがコントロールはしたくないので管理していません。多くの方が自分にできる範囲で活躍してくれているので管理はできません。農園に来たい人は何とか参加できるようにします。送迎できる人を探したり、保健師が迎えに行ったり、いろいろやりながらみんなで知恵を出し合ってなんとかします。他とえば見守りネット登録、行方不明搜索訓練くらいでしょうか。
	質問： アクション農園の活動を行うにあたり、活動費はどうしているのでしょうか。また、事故やケガ等に対する保険などに加入していますか。
	回答： 苗や肥料などの消耗品費は町の予算年間5万円でも余ります。参加者や参加できなくても必要なものを提供することにつながっていたいという人がいていろんなものが届きます。保険は入っていません。誰がいつ来てもいい場所なので適切な保険はないようです。11年間に事故やけがはありませんでした。もし何かあったら行政の入っている保険で対応することになるのでしょうか。
その他	質問： 冬の間、雪が多くある時期はどのような活動をしていますか。
	回答： 月1回福祉センターに集まり、優しいゲートボール（個人個人に合わせてその場でその人用のルールに変更）やお茶のみをしながら春何を植えるか、春になったら何をしたいかどう過ごすかなど話したり自由に過ごしています。

認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

～推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！～

活動報告への質問と回答（Q&A） 京都府南丹市 上藺和子氏・笹江喜子氏

認知症症状への 対応	質問： 70代から認知症を発症された方の相談を受ける中、本人、「まだ高齢者ではない」という認識ながら記憶障害で今までできていた事ができず、紛失を繰り返し同居家族もその対応に苦慮されストレスが溜まっているということに対して、対処や家族のストレスを緩和できる手法について悩んでいます。当事者と向き合えるいい方法があれば教えていただきたい。
	上藺氏 回答： 皆さんが仰っている「共にすごす」ことから始めるのが良いのではないかと考えています。少しずつ、ご本人を知り、ご本人の想いが聴けるようになって…そこから何かヒントが見つかるのではないかと思います。
	笹江氏 回答： ご本人、ご家族ともに、不安な気持ちを表現できる場があれば、それぞれの思いに添った向き合い方が見えてくるかもしれません。簡単ではありませんが、まず、こちらから添っていく。以下、参考になれば…。 お話をする中で、ご本人の好きなことはお菓子作りとわかり、一緒にクッキーを作りました（本人ミーティング開催）。手際がよくイキイキとしたご本人の様子に「まだまだ何でもできるんですね」とご家族は笑顔でした。その後ご家族には介護者家族の会を紹介しました。話せる場があることで、随分と気持ちが楽になったとのことでした。
認知症の人の 希望をかなえる ヘルプカード	質問： 希望を叶えるヘルプカード、実際当事者のご家族から提案。協働して作成したのですが、なかなかご本人の外出時の持ち物として認識がされず実動の難しさを感じました。 何か工夫等はされておられますか？
	笹江氏 回答： まだ取り組めていません。逆に皆さんがご苦労されている点を共有していただき、今後の取り組みの参考にさせていただけると嬉しいです。
	質問： 若年性認知症で就労されている方などではヘルプカードの利用は有効と思いますが、高齢者で認知症の進行してしまった場合にどう活用していったらいいでしょうか？
	上藺氏 回答： お一人お一人の状況に合わせ、どういうときに困って、どういうときに助けてもらいたいのか、どういう人がどういう形で助けてくれそうか考えて、作ってみられてはいかがでしょうか？
	笹江氏 回答： ご本人がお困りになりやすいことや、どんな時に声をかけてくれると助かるか、など、気づいた人が声をかけやすいように作成してみてはどうでしょう。
本人 ミーティング	質問： 当事者と出会うきっかけはどんなものでしょうか。本人ミーティングを考えていますが、当事者とどうやって出会うのかという声があり、参考にさせて頂きたいです。
	上藺氏 回答： 認知症に関係するイベントに遊びに行ったら、隣の方がご本人だったということがありました。
	笹江氏 回答： 認知症疾患医療センターや、市民検診などを通して保健師との連携、居宅介護支援事業所や包括支援センターとの情報共有、地域（サロンなど）に出向いた際の住民からの相談など、関係機関や地域の居場所などと常々ネットワークを構築しておくことも、当事者と出会うきっかけに繋がると思います。しかしながら、若年層の当事者との出会いはなかなかない状況です。

チームオレンジ	質問： 認知症の方の周辺症状で、近隣住民からの苦情が生じていて、排除の方向に動くリスクが起きています。 チームオレンジを作って支えていきたいと思っていますが、試行錯誤しています。警察の生活安全課や地域で関わりのある施設や公的機関などに相談や懇談に行き見守りをお願いしていますが、肝心のご近所とのコミュニケーションが一番難しいです。悩ましい状況です。
	上藺氏 回答： 生活支援コーディネーターや社協に相談してみてもいいでしょうか？ご近所さんと一緒に民生委員さんや福祉委員さんも地域で見守りができるようになるといいのではないかと思います。
	笹江氏 回答： まず、認知症について知ってもらうことからだと思います。民生委員さんとのつながりや、サロンなど集まりがあれば、認知症サポーター養成講座や出前講座をやってみませんか？とお声掛けできるのですが、いかがでしょう。
ピアサポート	質問： ご本人の声を聴き、ご本人に寄り添いながら地域住民の皆さんと一緒に推進している様々な取り組み、参考になることがたくさんありました。ご家族支援について質問したいです。ご家族同士がピアサポートをしようような取り組みや、そのきっかけづくりとして行ったことなど、アイデアがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いします。
	上藺氏 回答： ご近所のお茶会に参加させていただきました。たわいもない、楽しい話もしつつ、施設に入ったご主人の話、障害を持つ子供さんの話なども出てきました。支援者が知らないだけで、地域の中でピアサポートは行われているのだらうなと気づけた瞬間でした。孤立しがちな人には、認知症カフェや家族会などをご案内し、まずは支援者とのつながり作りから行うのがいいのではないかと思います。
	笹江氏 回答： 介護者家族の会の集まりを、近隣のカフェや介護者さん宅のお庭を借りて「出張交流会」として開催したり、OB会員が少人数で定期訪問しているところがあります。同じ経験をした者同士で分かり合えることは多いのではないかと、自発的に取り組まれています。（感染症対策はしています）
推進員の役割	質問： 認知症地域推進員と地域包括支援センターを兼務されている方が多いと思いますが、本市では認知症初期集中支援チーム員も兼務しており、認知症地域推進員としての役割を理解が難しいようで、負担感が大きいように思います。他の事業との連動もあるかと思いますが、どのように役割を整理されていますか。
	笹江氏 回答： 包括内に2～3名の推進員の配置があり、取り組みや役割など相談しながら行っています。包括やチーム員との線引きは難しいですが、推進員としての視点や動きというところを意識して役割の区別化を図っています。 包括職員全員が初期集中支援チーム員なので、負担感はないです。推進員活動には、法人内職員にも得意分野で関わってもらっています。

推進員活動の 運営	質問： わかる範囲、お話しできる範囲で教えてください。委託包括さんに質問です。大綱施行以降、地域支援推進員に期待される役割が増えていると思いますが、地域支援推進員に対し、委託費は増額されていますか。または、成果によって委託費に加算がつく等の措置はありますか。私は行政職の地域支援推進員ですが、地域支援推進員の機能強化にあたって、現在委託費見直し検討中のため、他自治体の情報が知りたいです。
	笹江氏 回答： 特に変更されていません。
	質問： 認知症地域支援推進員を委託包括に配置されているとのことですが、地域包括支援センター業務に含まれているのでしょうか。別途、認知症事業として委託されているのでしょうか。
	笹江氏 回答： センター業務とは別での委託事業です。
	質問： 推進員の皆様にお尋ねしたいのですが、間もなく年度末ということで異動や退職をされる方もいらっしゃると思います。推進員を引退される場合、今現在で周りの方々には公表していらっしゃるのでしょうか？
	上藺氏 回答： 元推進員です。引継ぎを行うタイミングで関係する皆様にお伝えをしていきました。
	笹江氏 回答： 推進員単独での取り組みや関わりというよりもチームでの取り組みや関わりが主なので、特に周囲には伝えていません。ただ、個別での関わりのあった方には伝えるようにしています。